

## 2 猛禽類モニタリング調査

### (1) イヌワシ及びクマタカについて

赤谷プロジェクトのモニタリング調査の一環として、赤谷の森に棲むイヌワシ及びクマタカの2種類の大型猛禽類について継続して調査を実施しています。

イヌワシ及びクマタカは、生態系の頂点に立つアンブレラ種です。アンブレラ種が健全に繁殖・生息できる環境が保たれていることは、その傘下にある種の生育及び生息環境も健全であると考えられていることから、赤谷プロジェクトでは生物多様性の復元に向けた取組の中で、イヌワシ及びクマタカを森林生態系における指標種として、これら希少種の生息環境を保全するとともに彼らと共存・共生できる自然環境を復元することを目的として、現況を把握しながら将来にわたり調査・研究（モニタリング）を進めています。

### (2) 主な取組

#### ア WGの開催

平成22年度の繁殖状況等の把握及び年間を通じた目標設定等を検討するため、会議を1回開催しました。また、その後の調査経過、管理経営計画への反映、イヌワシ特設調査結果等について検討するため、会議を3回開催しました。



WGの様子

#### イ ASTRによる定期調査の実施

WG座長の山崎亨氏により命名された猛禽類調査チーム「ASTR (Akaya Special Team for Raptors)」は、長年地元で猛禽類の観察を続けてきた群馬ラプターネットワーク及び旧新治村の自然を守る会の方々を中心に構成され、赤谷センター職員も構成員となっています。

また、サポーターの中から猛禽類調査活動に関心のある方を対象に研修会を実施し、修了者はASTRメンバーとして登録される仕組みを作っています。

平成21昨年度に続き、赤谷センター職員と地元在住のASTRメンバーが中心となって、平成22年度も定期調査を実施しました。

## ウ 合同調査等の実施

連続するクマタカ隣接ペアの個体識別やイヌワシの行動圏把握等、調査の目的によっては、定期調査に比べ大人数で調査を実施しなければならない場合があります。このような場合は、自然保護協会等と協力しながら調査を実施しています。

平成22年度も、日本イヌワシ研究会と赤谷プロジェクトが合同で、9月と11月に特設調査を実施しました。



合同調査のミーティング

## エ 調査活動等のまとめ (赤谷センターが参加したもののみ)

内容	実施日	備考	
WGへの参加	7月15日、9月11日、11月27日、1月30日		
定例調査等の実施	4月：15日、20日 5月：14日、17日、18日、28日、31日 6月：3日、17日 7月：2日、7日 8月：18日、26日 9月：1日、29日 10月：15日、28日 11月：5日、19日 12月：1日、2日、7日、14日 1月：7日、12日、20日、21日、24日、25日、26日 2月：1日、3日、4日、8日、16日、23日 3月：8日、24日、25日、29日	2日間 5日間 2日間 2日間 2日間 2日間 2日間 2日間 4日間 7日間 6日間 4日間	合計40日間
ASTR合同調査の実施	4月29日～5月1日 6月26日～27日 7月18日～19日 9月17日～20日 11月12日～15日 12月19日～21日	} ワシ研との 特設調査	

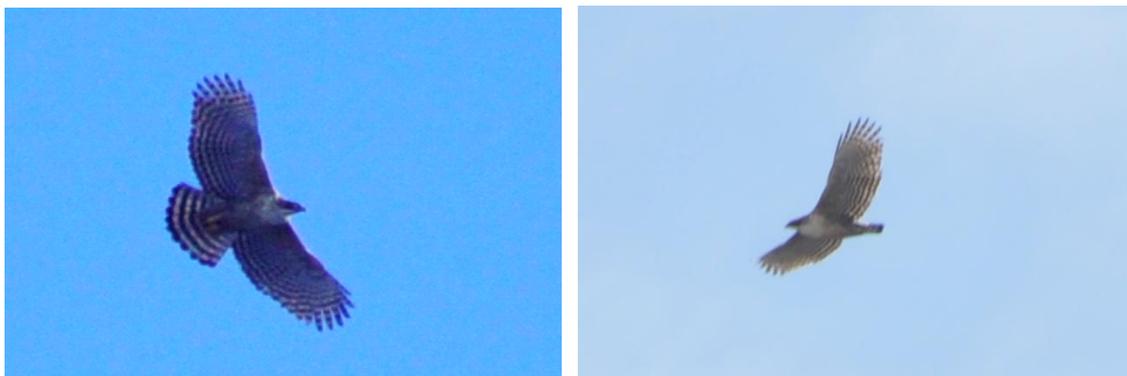
### (3) 主な成果等

平成22年度のイヌワシについては、雛の確認もなく繁殖失敗に終わっています。隣接するペアについても抱卵は確認できたものの、その後繁殖に失敗しています。

平成22年度に実施した日本イヌワシ研究会との2回の特設調査においては、貴重なデータが数多く収集でき、有意義な調査となりました。

クマタカについては、5ペアの繁殖状況を明らかにしました。平成22年度の繁殖は、1ペアのみが成功し、その後の幼鳥は順調に成長しています。残りの4ペアのうち1ペアについては、4月に抱卵を確認し順調と思われましたが、5月下旬に突然抱卵を中止し、その後もネスト（巣）に戻らず他のネスト利用の確認や幼鳥の出現もなく繁殖失敗に終わっています。その他のペアについては、注意深く行動圏を継続的に調査しましたが、幼鳥の出現や育雛（子育て）状況は認められず繁殖していないことが確認できました。

隣接するペアについては、平成21年度からその存在の可能性が高いとされていますが、数回確認されただけでネストの発見には至りませんでした。



クマタカの飛翔

### (4) 来年度に向けて

これまでの調査活動で多くの成果を得ることができましたが、イヌワシ及びクマタカの生態を確実に把握し森林施業に反映するには、まだまだ多くの知見が必要です。これまでに得られたデータを整理し、来年度の調査研究においては、以下の項目を中心に、赤谷センターも協力していきたいと考えています。

- ① イヌワシ及びクマタカの繁殖状況調査
- ② イヌワシ及びクマタカのハンティング（狩り）場所のデータ収集  
（夏緑広葉樹の落葉期及び積雪期におけるデータを含む）
- ③ イヌワシ及びクマタカの隣接するペアの継続的な確認
- ④ クマタカの人工林（皆伐・間伐）の利用状況の確認
- ⑤ イヌワシ特設調査